

No. 18 「歴史総合」(探究型授業)

【授業者】早崎潤子(地理歴史科)

【対象】普通科1年B組

【日時】令和8年2月5日(木)

【テーマ】なぜパレスチナ問題は起こったか

【学習のねらい】パレスチナ問題を単なる「宗教対立」として片付けるのではなく、第一次世界大戦期の国際情勢と、イギリスの外交政策が各主体(イギリス・アラブ・ユダヤ)に与えた影響を多角的に理解する。この問題の根底にある事柄について、既習内容(帝国主義・ナショナリズム・反ユダヤ主義など)と結びつけることで理解を深める。

【学習方法】ジグソー法を用いた史料読解

本授業では、複雑な利害関係を整理するためジグソー法を採用した。

- ・エキスパート活動：生徒を「イギリス」「ユダヤ人」「アラブ人」の3つの専門家グループに分け、それぞれの立場に関連する主要史料を読み込んだ。
- ・ジグソー活動：各立場の代表者が集まるホームグループを編成。各自が分析した内容を持ち寄り、パレスチナの地に対してどのような「約束」が重なり、矛盾が生じていたのかを地図や図表を用いて共有した。

【活用した主な史料】

エキスパートグループA「イギリス」

- ① フサイン・マクマホン協定(1915年)：アラブの独立支持を約束
- ② サイクス・ピコ協定(1916年)：英仏露による中東分割の秘密協定
- ③ バルフォア宣言(1917年)：ユダヤ人の「民族的郷土」建設を支持
- ④ ファイサルとローレンス(1919年の写真)：アラブの反乱支援

エキスパートグループB「ユダヤ人」

- ① ユダヤ人歴史年表：前13世紀～19世紀末
- ② ゴラ「私は弾劾する」(1898年)：ドレフュス事件・反ユダヤ主義
- ③ ヘルツル『ユダヤ人国家』(1896年)：シオニズム運動
- ④ バルフォア宣言(1917年)：ユダヤ人の「民族的郷土」建設を支持
- ⑤ ザングウィルが提唱したスローガン：ユダヤ人によるパレスチナ入植

エキスパートグループC「アラブ人」

- ① イスラーム関連年表：7世紀～オスマン帝国
- ② 7世紀パレスチナの地図：イスラーム王朝(アラブ系)支配下
- ③ 20世紀初頭パレスチナの地図とオスマン帝国の民族構成
- ④ カワーキビー『ウンム・アル・クラ』(1900年)：アラブ民族主義
- ⑤ フサイン・マクマホン協定(1915年)：アラブの独立支持を約束
- ⑥ ファイサルとローレンス(1919年の写真)：アラブの反乱支援



【生徒の様子と学習成果】

当初、当時の公文書特有の言い回しや、地理的条件（除外される地域など）の解釈に苦戦する様子が見られた。しかし、生徒たちは「ここでの『赤粋』は何を指しているのか？」
「この表現はユダヤ人側にはどう伝わったと思う？」と活発に声を掛け合い、わからない用語はインターネットで調べながら、対話を重ね、考察をしていた。単に知識として「三枚舌外交」を覚えるのではなく、史料の文言の曖昧さが後の悲劇にどう繋がったのかを、当事者の視点から実感を持って深く考察できていた。

【今後の課題】

史料読解に時間を要したため、現代のパレスチナ情勢との結びつきを議論する時間がやや不足した。次時は、この歴史的背景が現在のガザ情勢やイスラエル社会にどのような影を落としているのか、現代的な視点でのリフレクションを予定している。